

一人ひとりの自立をめざした学級づくり

I 主題設定の理由

社会規範の流動化，地域社会のつながりや人間関係の希薄化，価値観の多様化など学校を取り巻く環境は大きく変わり，その中で子どもたちの姿も変わってきている。学校においては，「学級崩壊」「いじめ」「不登校」など様々な問題が起き，それらの課題解決に向けての真摯な取組が強く求められている。

学校での「学び」の基本は，学級集団にある。一人ひとりの子どもが集団の一員として互いに認められ，楽しく生活し，学ぶための空間が確保できるような学級集団づくりが求められる。そしてさらに，自分たちの思いによって自治的な活動を創り出し，そこから学びあえる学習集団にまで高めていく必要があると考える。

そこで，本部会では，一人ひとりが認められる学級づくりをめざして，「一人ひとりの子どもが居心地の良い集団づくり」，「人間関係の絆を強め，人とのつきあい方を学んでいく場面づくり」について研究を進めてきた。今年度も，「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について研究していくこととし，本主題を設定した。

II 研究の内容

1 研究の方法

- (1) 各個人の取り組みや実践を発表し，研究討議をする。

〈レポートの例〉

エンカウンター，特別活動の充実，学級会の進め方，班長指導，朝の会・帰りの会の進め方，係活動，学級力向上のための取組など学年の発達の段階や各学級の実態に応じた「自立をめざした学級づくりの手だて」について。

- (2) 「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」についての学習会を行う。
- (3) 授業研究を通して「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について学習を深める。

2 研究の具体的内容

(1) 第1回研究会

今年度の研究の方向性の確認・・・研究テーマ・研究方法について

(2) 第2回研究会

年間計画についての検討・確認

(3) 第3回研究会 実践発表Ⅰ

・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」

個の自立や友だちへの理解や良さに気付かせる実践

・「学級力を高めよう」

学級力アンケートの結果を踏まえて，学級における生活上に諸問題の解決を子どもたち自身が図っていかうとする実践

・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」

個の実態を把握し，その支援についての実践

(4) 第4回研究会 夏季学習会

・「学級力向上をめざす集団づくりの進め方」

講師：今泉教秋先生（牧丘第三小学校校長）

学級づくりのためのレク・遊びの指導 集団づくりの進め方

・授業案検討会

- (5) 第5回研究会 授業研究①
- ・学級活動
「みんなにがんばり賞をあげよう」(祝小4年赤星美佐先生)
- (6) 第6回研究会 実践発表Ⅱ
- ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」
運動会の取り組みを通して目標を達成させるための実践
「学校生活アンケート」の実態を踏まえてアサーショントレーニングなどに取り組んだ実践
自分の思いを伝える場の設定や誕生日会、きらきらカードなどの日常的な実践
 - ・「認め合い、支えあう学級づくりをめざして」
個別支援や「がんばった花をさかせよう」などの日常的な取組の実践
- (7) 第7回研究会 実践発表Ⅲ
- ・「自治的集団を作るステップを意識した指導」
集団の状況を把握しそれぞれの状態に合わせた取組の実践
 - ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」
学級力向上をめざした取組の実践
特別支援学級における支援の実践
- (8) 第8回研究会
- ・授業案検討会
- (9) 第9回研究会 授業研究②
- ・学級活動
「学級力向上プロジェクト」～卒業に向けよりよい学級をめざして～(6年)
(山梨小6年島田直美先生)
- (10) 第10回研究会 実践発表Ⅳ
- ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」
Q-Uアンケートの実態を踏まえた集団づくりのための実践
 - ・「学級力向上の取組」
話し合いで課題を見つけ、自分たちで改善していこうとする実践

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・“自立”のイメージを共有し合うことにより、個々の違いを財産とした個と集団との関わりの中で、個の自立と集団の自立双方がからみ合いながら成長していくことを確認することができた。また、学級集団づくりや一人ひとりの自立などテーマに基づいた実践報告を通して、学びあえたことが良かった。
- ・実践報告はその作成過程において、自己分析をする大変重要な機会である。報告書の作成は大変ではあるけれども、全員が作成し報告し合えたことは有意義であった。
- ・夏季学習会では、今泉校長先生に、肯定的な子ども理解の実践事例を具体的に話していただいた。また、学級力向上をめざす集団づくりについて、日頃感じていることなどの質問が多く出され、大変有意義な学習会となった。
- ・2本の授業研究は、日常の学級集団づくりや学習規律などの取組をはじめ、児童の実態に合わせた指導の工夫が感じられ、大変参考になるものであった。

2 課題

- ・児童生徒の「自治能力」を培い、将来の「主権者・自治権者」を育てることが本部会の目標・目的である。「学級づくりの自治能力」の視点を意識しながら研究を進め、今年度の研究会で確認された成果を踏まえて、来年度の研究へとつなげていくことが大切である。
- ・県教研では、「子どもの権利条約」が毎年話題になっている。それに関わった取組や学習会なども考えていくのもよい。

(部長 武井 麻子)